

## I. 長期戦略テーマ別帳票

提出日 2024年 8月 7日

## テーマ「カリキュラムの基本構造の改革」

長期戦略テーマの責任者  
(統轄部署)教務機構長  
林 隆敏  
(教務機構)

## 1. 長期戦略のテーマ

| 超長期ビジョン  | 長期戦略(テーマ名)         | 統轄部署 |
|----------|--------------------|------|
| 1 学士課程教育 | (3) カリキュラムの基本構造の改革 | 教務機構 |

## 内容

本学は「学生の質の保証」を目標に掲げており、すべての学生が卒業段階で学部区別なく共通で身に付けておくべき知識・能力・資質(「Kwansei コンピテンシー(仮称)」)を定め、それらを修得するための全学共通の枠組みとして新たに「基盤教育(科目)」を設ける。

基盤教育(科目)の例は以下のとおり。産業界・社会から求められる汎用的能力の育成や、本学に特長的な科目をカテゴリーごと(ア～コ)にまとめている。

- (ア) キリスト教科目群
- (イ) インターナショナル科目群
- (ウ) スタディスキル科目群(日本語文章力、プレゼンテーションなど)
- (エ) 数理・データサイエンス科目群(数学、統計、プログラミングなど)
- (オ) 言語教育科目群
- (カ) ライフデザイン科目群
- (キ) 世界市民科目群(環境学、平和学、国際関係論、世界市民論、人権教育など)
- (ク) AI 活用人材育成科目群
- (ケ) ハンズオン・ラーニング科目群
- (コ) スポーツ科学・健康科学科目群

カテゴリーごとの単位修得および合計して一定以上の単位数取得を共通の卒業要件として制度化する。基盤教育(科目)は全学科目として開講するが、学部は同様の科目を独自に開講している場合、学部生にどちらを履修させるかを選択することができる。

また、学生の中にはすでに当該科目が求める知識・能力を身に付けていて、履修を必要としない学生もいることが想定されることから、高校時代の単位修得状況、入学試験の成績や外部テスト、学内アセスメントテスト等によって単位認定する仕組みも導入する。

制度構築に際しては、総合コースなど現在の全学科目を抜本的に見直し、科目数を絞り込む。また、各学部にある教養科目を整理し、基盤教育(科目)に再編する。基盤教育(科目)の担当者は、専任教員以外に高等部教員や退職後の専任教員の活用、外部委託等も検討する。

このような制度によって、学部の専門科目と全学科目とが有機的に連動して教育全体の有効性や効率性を高める。

これらについての長期戦略は、2018年度に学長の下に設置するWGが遅くとも2019年3月末までに検討・答申を行う。

## 【フェーズⅡに向けた課題】

- ・アカデミック・ライティング教育、英語教育、数理・データサイエンス教育の徹底
- ・上記を含む全学共通の基盤教育の枠組みの確立  
(全学部横断型と学部独自開講との連携・棲み分け方、自由履修単位数の拡大等についても併せて検討)
- ・AI 活用人材育成プログラムやキャリア教育プログラム等、全学開講の基盤教育のフルオンライン(オンデマンド)化の推進(学部開講における基礎教育のオンデマンド授業化の連動)
- ・計画的履修を促すツール(単位修得状況の可視化・CAP制など)の検討
- ・全学ラーニングプラットフォーム構築の検討

## 【フェーズⅡの Total Review】

- ・主たる取組みである基盤教育の制度設計がコロナ対策を優先したこともあり、検討が進んでいない。
- その一方で、AI 活用人材育成プログラムやHoLP など大きく進展した個別プログラムがあり、継続して実施する必要がある。
- ・ポスト SGU はダブルチャレンジ制度を改めグローバルチャレンジへ変更となった。量から質へと求められるものが変化してくる中、共通教育 C を立ち上げて 15 年経過していることも踏まえて現行の教養教育、初年次教育、情報教育、英語教育、HoLP などの全体的な科目体系や内容及び開講形態(オンラインオンデマンド化を含む)の見直しが必要。

## 【フェーズⅢに向けた課題】

- ・Kwansei コンピテンシーを獲得できる基盤教育制度の確立に向け、既存の全学科目の効果検証と再構築
- ・学部が個別開講する教養科目を全学科目への集約検討
- ・高等教育の先進事例・トレンド(海外動向を含む)を収集し、学術的視点を踏まえて「教育の未来」を提示する機能の拡充
- ・「未来の教育」実現に向けた教育力向上施策の推進(主な推進テーマ:PBL、教学DX、国際共修、英語化等)
- ・生成系 AI の普及に伴い、教育への活用を視野に入れた対応検討

## I. 長期戦略テーマ別帳票

提出日 2024年 8月 7日

## テーマ「カリキュラムの基本構造の改革」

長期戦略テーマの責任者  
(統轄部署)教務機構長  
林 隆敏  
(教務機構)

## 指標 1

| 指標             | 内容  |  |                      |       |                      |  |
|----------------|---|--|----------------------|-------|----------------------|--|
| 指標名            | 在学時の学修経験  |  |                      |       |                      |  |
| 定義・算式          | 【2021 まで】大学 IR コンソーシアム学生調査（上級生）のⅡ-8 学習経験「A. 体験的に学ぶ」「B. 仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ」「H. 自分の考えや研究を発表する」「I. 学生同士が議論する」で「頻繁にあった」「時々あった」の合計の割合<br>【2022 以降】在学生調査（3 年次）の間3「3. 学生同士で議論」「7. 体験的に学ぶ」「8. 自分の考えや研究を発表する」で、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計の割合 |  |                      |       |                      |  |
| 現状値<br>(指標設定時) | 65.4% (2017 年度)   |  |                      |       |                      |  |
| 目標値            | フェーズ 1 終了時 (2021 年度)  |  | フェーズ 2 終了時 (2024 年度) |       | フェーズ 3 終了時 (2027 年度) |  |
|                | 70%   |  | 60%                  |       | 70%                  |  |
| 実績値            | 2019 年度   | 71.7%                                    | 2022 年度              | 56.9% | 2025 年度              |  |
|                | 2020 年度   | 62.43%(コロナ禍のため、「A. 体験的に学ぶ」の値が 45.00%と低迷) | 2023 年度              | 56.8% | 2026 年度              |  |
|                | 2021 年度   | 63.16%<br>(「A. 体験的に学ぶ」の値が 46.36%と低迷)     | 2024 年度              |       | 2027 年度              |  |

## 指標 2

| 指標             | 内容  |  |                      |  |                      |  |
|----------------|---|--|----------------------|--|----------------------|--|
| 指標名            | 汎用能力の獲得状況   |  |                      |  |                      |  |
| 定義・算式          | 【2021 まで】共通学生調査(IR1 年生調査、IR 上級生調査)の「入学した時点と比べて、あなたの次の能力や知識はどのように変化しましたか」という質問の全項目の「大きく増えた」「増えた」の合計の平均値の差<br>【2022 以降】廃止 |  |                      |  |                      |  |
| 現状値<br>(指標設定時) | 1 年生と上級生の差 : 10.9 ポイント  |  |                      |  |                      |  |
| 目標値            | フェーズ 1 終了時 (2021 年度)  |  | フェーズ 2 終了時 (2024 年度) |  | フェーズ 3 終了時 (2027 年度) |  |
|                | 16.0 ポイント   |  |                      |  |                      |  |
| 実績値            | 2019 年度   | 13.16 ポイント<br>(上級生 66.33% - 1 年生 53.17%) | 2022 年度              |  | 2025 年度              |  |
|                | 2020 年度   | 19.62 ポイント<br>(上級生 66.45% - 1 年生 46.83%) | 2023 年度              |  | 2026 年度              |  |
|                | 2021 年度   | 11.71 ポイント<br>(上級生 65.04% - 1 年生 53.33%) | 2024 年度              |  | 2027 年度              |  |

## 指標 3

| 指標             | 内容  |                        |                      |                             |                      |  |
|----------------|---|------------------------|----------------------|-----------------------------|----------------------|--|
| 指標名            | Kwansei コンピテンシーの到達度   |                        |                      |                             |                      |  |
| 定義・算式          | Kwansei コンピテンシーの到達状況<br>※実績値は、10 項目の「大変身についた (ている)」「やや身についた (ている)」の平均値を算出   |                        |                      |                             |                      |  |
| 現状値<br>(指標設定時) | 高等教育推進センターがアンケートを作成し、2019 年 3 月卒業生と 4 月入学生に対して実施。同一の対象者ではないが、在学 4 年間の効果について分析を行っている。2022 年 4 月から調査実施、分析は総合企画部へ移管。 |                        |                      |                             |                      |  |
| 目標値            | フェーズ 1 終了時 (2021 年度)  |                        | フェーズ 2 終了時 (2024 年度) |                             | フェーズ 3 終了時 (2027 年度) |  |
|                | 未実施   |                        | 卒業時 85%              |                             | 卒業時 90%              |  |
| 実績値            | 2019 年度   | 新入生 44.0%<br>卒業時 78.8% | 2022 年度              | 新入生 64.1% (修正)<br>卒業時 83.2% | 2025 年度              |  |
|                | 2020 年度   | 新入生 49.3%<br>卒業時 85.5% | 2023 年度              | 新入生 60.7%<br>卒業時 82.6%      | 2026 年度              |  |
|                | 2021 年度   | 新入生 47.4%<br>卒業時 84.5% | 2024 年度              |                             | 2027 年度              |  |

# I. 長期戦略テーマ別帳票

提出日 2024年 8月 7日

## テーマ「カリキュラムの基本構造の改革」

|                       |                         |
|-----------------------|-------------------------|
| 長期戦略テーマの責任者<br>(統轄部署) | 教務機構長<br>林 隆敏<br>(教務機構) |
|-----------------------|-------------------------|

### 2. 実施計画ロードマップ

| 実施計画                                   | 担当部署             | 学部・研究科での<br>取組み有/無         | 2019  | 2020 | 2021 | 2022 | 2023 | 2024       | 2025 | 2026 | 2027 |
|--|------------------|----------------------------|---|------|------|------|------|------------|------|------|------|
| ① 基盤教育の制度創設<br>(WGの答申を踏まえた施策の実施)       | 教務機構             | 必要⇒【選択型】(学部・研究科が任意で取組みを選択) | カリキュラム基本構造改革WGの検討内容により、実行計画ロードマップを確定する。             |      |      |      |      |            |      |      |      |
| ② (旧中期計画:IBMとの共同事業を継承)AI活用人材育成プログラムの推進 | 教務機構、総合企画        | 必要なし                       | 3年間   |      |      | 3年間  |      |            | 3年間  |      |      |
| ③ (SGU1-1)国際プログラム(派遣・融合)               | 教務機構(TFダブルチャレンジ) | 必要なし                       | 3年間   |      |      | 2年間  |      |            |      |      |      |
| ④ (SGU1-2)ハンズオン・ラーニング・プログラム(実践型学習)     | 教務機構(TFダブルチャレンジ) | 必要なし                       | 3年間   |      |      | 2年間  |      | 1-(3)-⑦に統合 |      |      |      |
| ⑤ (SGU1-3)副専攻プログラム                     | 教務機構(TFダブルチャレンジ) | 必要なし                       | 3年間   |      |      | 2年間  |      |            |      |      |      |
| ⑥ (SGU2-4-1)クォーター科目の拡大<保留>             | 教務機構             | 必要なし                       | 文部科学省に構想補正を申請中のため、実施計画帳票なし。承認されなければ、SGUとして帳票を復活させる。 |      |      |      |      |            |      |      |      |
| ⑦ ハンズオン・ラーニング・プログラムの健全かつサステナブルな提供体制の構築 | 教務機構(ハズオンLC)     | 必要なし                       |   |      |      | 3年間  |      |            | 3年間  |      |      |
| ⑧                                      |                  | 必要の有無を選択ください。              |   |      |      |      |      |            |      |      |      |
| 【備考欄】                                  |                  |                            |   |      |      |      |      |            |      |      |      |

※想定される実施計画の例示

- ①. 基盤教育(科目)の制度創設
- ②. 【DX関連】授業オンライン化に対応した、アカデミック・ライティング教育、英語教育、数理・データサイエンス教育を徹底

※ロードマップ策定作業用記号



### 3. 本長期戦略テーマの各実施計画に関する費用、人員の合計(2019年度~2027年度)

## I. 長期戦略テーマ別帳票

提出日 2024年 8月 7日

## テーマ「カリキュラムの基本構造の改革」

長期戦略テーマの責任者  
(統轄部署)教務機構長  
林 隆敏  
(教務機構)

## ◆フェーズⅠ：2019年度～2021年度

| 費用計画・人員計画<br>(単位：万円) | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 |
|----------------------|--------|--------|--------|
| 経費合計                 | 非公開    |        |        |
| 人件費合計                |        |        |        |
| 総計(経費+人件費)           |        |        |        |

## ◆フェーズⅡ：2022年度～2024年度

| 費用計画・人員計画<br>(単位：万円) | 2022年度 | 2023年度 | 2024年度 |
|----------------------|--------|--------|--------|
| 経費合計                 | 非公開    |        |        |
| 人件費合計                |        |        |        |
| 総計(経費+人件費)           |        |        |        |

## ◆フェーズⅢ：2025年度～2027年度

| 費用計画・人員計画<br>(単位：万円) | 2025年度 | 2026年度 | 2027年度 |
|----------------------|--------|--------|--------|
| 経費合計                 | 非公開    |        |        |
| 人件費合計                |        |        |        |
| 総計(経費+人件費)           |        |        |        |

## 4. 進捗状況等記入欄

|        | 進捗状況および今後の課題、方向性   |
|--------|--|
| 2019年度 | 基盤教育の制度設計については、2018年度より、「カリキュラム基本構造改革WG」にて検討を進めてきた。現在(2020年8月)、新型コロナウイルス感染症対応が落ち着くまでは、カリキュラム基本構造改革WGは休会している。なお、新型コロナウイルス感染症対策に伴い、オンライン授業を展開したため、WG再開後はその経験を踏まえて、検討を進めたい。   |
| 2020年度 | 基盤教育の制度設計については、2018年度より、「カリキュラム基本構造改革WG」にて検討を進めてきた。一方で、昨年度から継続してカリキュラム基本構造改革WGは休会している。なお、2019年度以降のオンライン授業の展開によって積み重ねた知識や経験を基に、WG再開後に検討を進めたい。   |
| 2021年度 | 基盤教育の制度設計については、2018年度より、「カリキュラム基本構造改革WG」にて検討を進めてきたが、2019年度から休会している。<br>一方、2021年度は「ポストコロナにおける授業の在り方と基盤整備プロジェクト」においてDX推進計画を策定する中で、共通教育科目のオンデマンド化の方針等を検討してきた。DX推進計画は2022年4月の学院総合企画会議で取組の方向性の承認を得たものの、その後の学内承認プロセス(学部長会、大学評議会、法人評議委員会、理事会)は見送りとなり、今後は必要に応じて、各施策を学内承認プロセスに諮ることとなった(2022年6月)。なお、2022年度は後継の「教学DX推進プロジェクト」において、全学ラーニングプラットフォームの構築を検討する予定である。 |
| 2022年度 | 基盤教育の制度設計については、2018年度より「カリキュラム基本構造改革WG」にて検討することになっていたが、2019年度から休会している。一方、AI活用人材育成プログラムの履修者増や、ハンズオン・ラーニング・プログラムにおける活発な活動など、個別プログラムにおける取り組みは活性化しており成果が出ている。今後、当テーマにおける中心的な取組みである基盤教育の枠組み確立に向けて、どういった切り口から取り組むかについて検討する必要がある。   |

## I. 長期戦略テーマ別帳票

提出日 2024年 8月 7日

## テーマ「カリキュラムの基本構造の改革」

長期戦略テーマの責任者  
(統轄部署)教務機構長  
林 隆敏  
(教務機構)

|         |   |
|---------|---|
| 2023 年度 | AI 活用人材育成プログラムについて、入門科目の履修者が順調に増加しており、AI について学ぶ学生の裾野は着実に広がっているが、プログラム修了に至る学生は依然として目標値を下回っており、カリキュラム面の見直しや、広報活動など多面的な取り組みを実施し、真に AI 活用人材として社会に出る学生数を増加させていく必要がある。ハンズオン・ラーニング・プログラムについては、履修者が漸増している一方で運営上の課題も浮き彫りになってきており、諸々改善を図る必要性に迫られている。また基盤教育の制度設計については停滞しており、過去の議論を再度洗い直したうえで検討の端緒に就くことから再開する必要がある。 |
| 2024 年度 |   |
| 2025 年度 |   |
| 2027 年度 |   |